

五小の風景

No. 7

五日市小学校長 國政 直文

目標を持って

運動会も無事終わり、いよいよ勉強にいそしむ時期となりました。今年度も残り5ヶ月となりました。今の学年が充実した学年となるためにも、明確な目標を立てて、じっくりと取り組んでほしいと思います。目標を立てることで、やる気が出てきます。西洋の昔話に「日曜日が一週間」という話があります。目標を立てることの大切さについて考えさせられる話です。ご存知の方もいると思いますが、ちょっと紹介してみます。

主人公は怠け者のボビー・オブライエンという男。ある日曜日の夜、ボビーの家に一人の小男がやってきて夕食をご馳走になる。小男はお礼として、この屋根の下で唱えられた最初の願いをかなえてやると言って、闇の中に消えていった。

怠け者のボビーは考えた。とびっきりの願いを考えるには時間がかかる。しかし、その日は日曜日の夜で、明日からは仕事や雑用のある月曜日だ。ゆっくり考えている時間がない。ボビーは思わず、「日曜日が一週間あればいいのに」ともらしてしまふ。そして、これがこの屋根の下で唱えられた最初の願いであった。小男の言うとおりの願いはかなえられた。

翌日は本当に日曜日だった。怠け者のボビーは昼までベッドで過ごし、一週間が丸ごと日曜日でも悪くないとほくそ笑む。

しかし、喜色満面のボビーの表情がやがて憂鬱なものに変わった。毎日が日曜日のため、村中の店は閉めたきりで食材を買えない。畑でジャガイモを掘ろうとすると、「近所の人の目があるから日曜日に働いたらだめ」と妻に言われる。子どもたちは、毎日午前中は教会通いで、もう行きたくないと泣く。しかも教会の牧師さんさえも「あいつのせいで毎日夜遅くまで新しい説教の内容を考えなければならない!」と、ボビーを名指しにして怒り出す。

こうして、7日目の夜、あの小男が再びボビーの家にやって来る。そして、「願いごとは楽しめたかい」と聞く。ボビーは言う。「6日働いたあとの休日が本当の楽しみだということが分ったよ。日曜日が一週間はもうんざりだ。」

小男は静かに姿を消し、二度とボビーの前に現れなかったという。

私自身、この昔話に出てくるボビーのように、毎日が日曜日だったらと考えたこともありましたが、この話にもあるように、6日働いたあとの休日だからこそ日曜日が楽しいのであって、目標がなく毎日が日曜日であれば何の楽しみもないだろうし不安だろうと思います。言い換えると、何か一つ目標があると、その目標を達成するために、月曜日はあれ、火曜日はこれというように計画をたてて行動し、チェックした計画をたてて生き生きと行動できます。毎日に変化があるからです。つまり、私たちが意欲的に行動できるのは、しっかりとした目標があるときです。

子どもたちがいきいきと活動する時も、目標が明確にあるときです。したがって、どんな目標でもいいから自分なりの目標をぜひ持たせたいと思います。子どもたちに目標を持たせるとき、大人である私たちの協力はとても大切です。夢は大きい方がいいですが、目標は達成できそうな程度から立てていく方がいいのです。なぜなら、計画した目標がいつも達成できなければ、子どもは達成感が得られず、自信をもつことができなくなるからです。

たとえば、家庭学習の時間(目標)を決めるとします。この時間を決める時も、子どもに提案、助言というかたちで係っていくといいと思います。「1日にどれくらい勉強する? 1時間? 30分?」子どもは、いろいろな時間を答えると思います。「15分」と答えるかも知れません。それでもいいんです。自分で決めた時間(目標)からはじめればいいのです。自分で決めることができたことを褒めてあげましょう。但し、普段の様子から達成可能でないと思われたら(いつも20分程度しか集中できない子が「1時間」と言ったときなど)場合は、修正してあげることも大切です。それは、先ほど書いたように、子どもに達成感が持てず自信喪失につながるからです。

子どもたちが、具体的で明確な目標を持ち、生き生きと行動できるよう、子どもたちへの言葉かけをご家庭でもよろしくお願ひします。

